

# 1年 生活科 「自然大好きな子供たちを育む活動」

H24. 1. 5

仙台市立岩切小学校 高橋 圭

## 「自然大好きな子供たちを育てたい」という思い

子どもたちに「自然大好きになってもらいたい」と思っている。この思いは、私が「小学校の教員」を仕事に選んだ大きな理由の1つでもある。

幼少時代、里山がきれいな父の実家でよく遊んだ。夢中になって虫取り、魚すくい、山菜とり、木の実拾いをした。つかまえた生き物はたいてい何でも飼ってみた。昆虫のあの何とも言えない流線型の形や光沢のある色具合が大好きだった。

学生時代、自然観察公園のレンジャーに憧れ、あちこち話を聞いて歩いたこともあった。よくよく考えた結果、たまに来るお客さんに自然の話をするより、毎日一緒にいる子供に自然のことを紹介した方がいろいろできるのではないかと思ったのである。昔読んだ本『センス・オブ・ワンダー』にはこうあった。「子供は本来どんな子でも自然に興味を持っているが、そのままでは自然好きには育たない。そこに必要なのは、子供に寄り添って、自然のことを話してあげる一人の大人である。」と。なるほど、私もそんな人になりたいと思った。そうなってくると小学校の先生はぴったりだなあとということになり、今に至る。

好きなものはだれでも大切にするものだ。「自然が大好きだ」という気持ちを育てることこそが、青い地球を守っていくことではないかと考える。そして、私がそうであったように、「自然が大好きだ」という気持ちを育むには、「幼少期の自然体験」が大きな影響を与えているのだろうと思っている。家庭での自然体験が減ってきているのは明らかだろう。社会の変化であり、仕方ないことである。と思うからこそ、学校で自然と関わらせる活動をどんどんやっていきたいと思うのである。

## 「学級でやってきたこと」

### ○「自然発見」

登校中や、家の近くで見つけた草花、昆虫、木の実、石などを持ってきてみんなに紹介する活動。毎朝朝の会の中でやっている。毎日やっていると季節によって持ってくる物が変わり、季節の移り変わりを感じることができる。「いつ、どこで、どんなものを見つけたか」というように、話し方の練習にもなっている。自然に目を向けさせ、興味を持たせる取り組みとしてはよい活動である。



季節の移り変わりを感じることができる。「いつ、どこで、どんなものを見つけたか」というように、話し方の練習にもなっている。自然に目を向けさせ、興味を持たせる取り組みとしてはよい活動である。

### ○「春の草花でしおり作り」

4月、校庭の草花探しに出かける。名前を覚えてもらい、草花に親んでもらいたいと思ったので、春の草花の名前入り写真を教室にはっておいた。ホシノヒトミ、ヒメオドリコソウ、ハコベ、ナツナ、タネツケバナなど、だいたい名前を覚えて発表していた。色画用紙に好きな草花を載せ、透明フィルムシートをはりつけ、しおりを作った。



### ○「タンポポのせいくらべ」

自然発見でタンポポの綿毛を持ってくるようになったら、タンポポのせいくらべを始める。タンポポが種を風に乗せ遠くまで飛ばし仲間を増やすため、周りの草と競って茎を伸ばす。長さくらべをしながらそのこ



とを学んでいく活動。今年のチャンピオンは翔真くん（91cm）。「長さの学習」にもなっている。すごく盛り上がった。

### ○「石となかよし 恐竜となかよし」

石にも興味を持ってもらいたい。はじめに石にもいろいろな石があることを紹介した。光る石、字が書ける石、火打石、テレビ石、水に浮く石、水晶。水晶の仲間（石英）を校庭でたくさん拾えることを話すとみんな大喜びである。次に化石。木の化石、木の葉の化石、貝の化石、アンモナイト、三葉虫、サメの歯の化石。サメの歯の化石も校庭で拾える。そして恐竜の化石。恐竜の骨、歯、うんちの化石を紹介し、みんなにもさわってじっくり見せた。最後に恐竜の大きさを体験させるため、体育館の上から実物大の恐竜を書いた布をつるして見せた。全員総立ちで歓声が上がった。



### ○「水晶のキラキラバッチづくり」

石に興味が出てきたところで、みんなにフィルムケースを持たせ、校庭で水晶（石英）拾いをさせる。地べたに這いつくばって黙々と水晶を集めていた。運のいい子はサメの歯の化石も見つけた。教室に帰り、バッチを作る。金銀のボール紙を四角やハートなど好きな形に切り、拾ってきた水晶をボンドで思い思いに貼っていく。おまけで、紫水晶やペリドットの細石もプレゼントしてバッチにつけさせた。休み時間は砂場に寝そべって水晶・サメの歯拾いに没頭する日々がしばらく続いた。



### ○「アサガオの栽培・観察」

4月、2年生からもらったアサガオの種を観察し、自分のハチに種を植えた。水やりは日直の仕事にし、みんなの分をお世話するようにした。成長するたびに観察し、カードを書いた。夏休みの宿題でたたき染めも行った。種の収穫の時に数をかぞえたら、1つの種から多い子で30個くらいの種ができたようだった。残ったツルでクリスマスリースも作った。



### ○「生き物となかよし」

メダカ、イモリ、ザリガニ、カニ、鈴虫を飼った。はじめは教室で飼っていたが、他のクラスの子も見たいだろうということで、廊下のコモンホールに生き物スペースを作って飼った。生き物に関する図鑑や本も



水槽のすぐ近くに置いてすぐに調べられるようにした。子供たちが生き物探しでつかまえてきた虫や、幼虫もしばらくはいっしょに置いて飼った。「世界の昆虫標本」も展示した。

### ○「オナモミダーツ」

オナモミを取ってきて遊んだ。昔は、どこにでも生えていたような気がするが、最近はなかなか見つけられなくなった。どちらかというと海沿いの野原で見かけることが多い。今回は私が出がけでたまたま見つけた物を引っこ抜いてきたものを使った。茎にくっついたままのオナモミをグルー

プごとに配り、オナモミの種を取り外してもらった。痛い、痛いと言いながら、喜んでやっていた。もう早速友達同士投げっこをして、みんな体中オナモミだらけになって遊んだ。さんざん遊んだあたりで、ダーツの的を出してきて、自由に遊ばせた。最後にオナモミのすごいところを紹介した。「オナモミはとっても賢い植物で散歩に来た人の服や、犬の体に気付かれないように種をくっつける。自分の家へ帰ってきてオナモミがくっついていっていることに気が付き、庭にぼいと捨てる。するとそこから新しい芽を出して、仲間を増やすのだね。」「服にくっつくオナモミを見てマジックテープが発明されたんだって。」という話しをした。「オナモミって頭いい!」と言っていた。



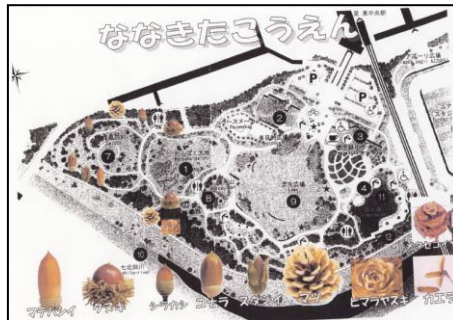
### ○「くるみ洗い」

私が河原から拾ってきたクルミをみんなで手分けをして洗った。実の中に入ってるクルミはみんな初めて見たと言っていた。クルミを見るのが初めての子もいた。実がくさって真っ黒いので嫌がるかと思ったが、みんな喜んで洗っていた。乾かしてから、金床の上で割って食べた。苦いと言って食べられない子もいた。食べ終わったからは、木の実の人形作りや、リース作りにも使った。



### ○「秋の遠足 七北田公園で木の実拾い」

岩切小では例年、県民の森まで歩いて遠足し、どんぐり拾いをしていたが、今年は震災の影響で県民の森へは入れなくなっていた。色々な公園を下見した結果、たくさんの種類の木の実が拾える七北田公園へバスで出かけることにした。葉っぱと身がいっしょについている枝を頂いてきて、細工したペットボトルに固定し、木の実の標本を作った。木の実を使った工作の見本と一緒にコモンホールに展示しておいた。また、遠足のしおりの裏にどこでどんな木の実が拾えるかが分かるようなマップを作って乗せた。うれしかったのは、子どもたちが「ドングリ」ではなく、「シラカシ見つけた」とか「クヌギあったぞ」とか、すっかり名前を覚えて話していたことである。みんないっぱい拾ってきた。



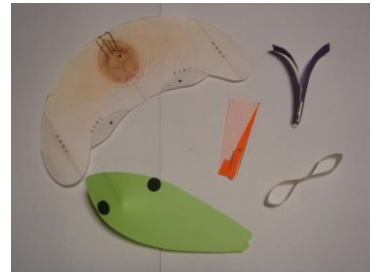
### ○「木の実の人形・どんぐりコマづくり」

遠足から帰ってきた次の日、早速拾ってきた木の实を使って人形作りをした。ホットボンドを初めて使わせたが、やけどした子はほとんどいなく、みんな上手に使っていた。味のある作品がたくさんできあがった。どんぐりコマを作りたい子には、生活科室にあった「木の实穴開け機」なるものを使わせた。ちょっと怖いので私がついて一緒にやった。まつぼっくりのやじろべえも作らせようと思い、少し前に私が詩作しコモンホールにおいて遊ばせていた。だが、数日経ったらさんざん遊んでいた子供たちが「おかしい。立たなくなった。」と言いにきた。確かに、始めはうまくバランスを取っていたのに、さっぱり立たなくなっていた。なるほど、湿度によってマツカサが開いたり閉じたりするため、作った時のバランスが変わっていたのである。



### ○「風で飛ぶ種で遊ぼう」

自然発見や、七北田公園でカエデの実を拾ってきた子がたくさんいた。まつぼっくりの間に種が入っているのを見つけたという子もいたので、飛ぶ種で遊ぶことにした。始めに世界一大きな種「ココヤシ」や、大きな豆「モダマ」を見せた。大きなアメリカの松ぼっくり「シュガーパイン」も見せた。自分たちが拾ってきたまつぼっくりと比べ、その大きさにみんなびっくりしていた。その大きなまつぼっくりから種を取って飛ばすとくるくる回って落ちてくる。子供たちはみな「カエデだ!」と言っていた。そこでたくさん取っておいたカエデの種や、研究会で頂いてきたツクバネ、ユリノキ、アオギリもあげてくるくる回りながら、風に乗って遠くまで飛ぶ種で遊んだ。そして、グライダーが発明されるもとになった「アルソミトラ」の種を飛ばせて見せた。「飛行機だ!」という声が上がった。その後で「本物の種をまねして、飛ぶ種を作ってみよう」ということで、くるくる回る種や、アルソミトラの種を紙で作り、飛ばして遊んだ。



### ○「アサガオのクリスマスリース」

自分で育ててきたアサガオのツルを使ってクリスマスリース作りをした。1日授業参観の日に2時間かけてやった。ツルを根元からハサミで切って束ねて丸める。タイで5か所ぐらいとめてリースの基礎部分は完成する。これが大変だった。予想以上にツルがボロボロ短くなってしまい、輪っかにならない子が多かった。参観に来た保護者にも助けをもらい、タイをいっぱい使って、何とかやった。アサガオのツルが足りない子には葛のツルを使わせた。2時間目は飾り付け。自分たちで持ってきたリボンやモール、ビーズ、スパンコール、まつぼっくりやドングリなどをボンドや、ホットボンドでつけた。リボンを結ぶのにてこずっていた子がいたくらいで、後は手慣れたもので、上手にくっつけていた。



### ○「まつぼっくりツリー」

七北田公園に行く前に、「こんなのも作れます」と紹介していたのを子どもたちはしっかり覚えていた。「ツリーはいつになったら作るんだ」とせがまれていたので、冬休み前にやっと作った。まずペットボトルのふたをホットボンドでまつぼっくりにつける。それを取っ手にして筆で緑絵具をぬる。乾いたらボンドでビーズやらスパンコールやらをつけていく。ペットボトルのふたにキラキラテープをはって完成。これはホントに喜んで黙々とやっていました。



《終わりに》担任が好きでやっていると、子供たちも乗ってくる。その思いは伝わるんだろうと思う。私は専門ではないので、本当でないこともたくさん言っていると思う。が、多少でたらめでもやった方がいいと思う。今後も子供と一緒に学びながら、自然と関わらせる活動を続けていきたい。